令和元年度 第1回金沢市入札制度評価委員会の審議概要

開催日及び場所		令和元年7月12日(金) 金沢市役所 第1委員会室	
委員 (委員数5名) (出席数5名)		委員長 米田 満(公認会計士) 委員 松本 樹典(金沢大学教授) 委員 本間 学(金沢大学准教授) 委員 西村 督(金沢工業大学教授) 委員 栗田 真人(弁護士)	
次第		1 開会 2 報告案件 (1) 入札・契約制度の改正等について 3 審議案件 (1) 工事等に係る入札・契約手続きの運用状況等 ア 平成30年度の本市発注工事及び工事関連委託業務の結果について イ 入札参加資格停止の運用状況及び談合情報への対応状況について (2) 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯 (平成31年1月1日から平成31年3月31日) 4 閉会	
抽出案件		5件	
工事	制約付き一般競争入札	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小橋町ほか1町地内ガス管及び配水管改良工事(その4) ・ 無量寺公園地下貯留施設電気設備設置工事
	随意契約	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 城北水質管理センター2号脱水機定期修繕工事
委託	制約付き一般競争入札	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度 西部水質管理センター汚泥濃縮棟機械電気設備更新実施設計業務委託
	指名競争入札	1件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四十万小学校校舎大規模改修工事第1期(建築工事)実施設計業務委託
審議内容		別紙のとおり	
委員会による報告 又は意見の具申		平成30年度の発注工事等に係る入札・契約手続きの運用については、適正に行われていると判断する。	

(お問合せ) 〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
 金沢市総務局監理課 工事契約係
 電話:076-220-2101

総括

委員からの意見は、概ね次のとおりであった。
 現行の入札契約制度及び平成30年度の工事・委託業務の業者選考等は適正であることを確認した。
 今年度からの入札契約制度の改正の影響も含め、引き続き、現行制度の検証を続けていくとともに、国・県や他都市の状況との比較検討を行いながら、不断の見直しを行うことで、より一層、公平・公正で透明性の高い入札契約制度の構築に努めてほしい。

意見の詳細は、次のとおり。

質 疑 ・ 意 見	応 答
<p>1 工事・委託業務に係る入札・契約手続きの運用状況等</p> <p>○ 入札・契約制度について、今年度からどのような改正が行われているのか。</p> <p>○ 委託業務において建築設計の平均落札率が他の設計業務に比べて低いが、この理由をどう分析しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国や石川県の制度との整合性や本市の現状を踏まえ、総合評価方式における若手技術者育成方式の導入や金沢版週休2日モデル工事の試行開始、最低制限価格及び低入札調査基準価格の算出方法の見直しを行った。 最低制限価格等の見直しについては、国がダンピング受注対策の強化を目的として改正を行ったことに伴い、本市も同様の改正を行ったものである。 土木設計などの設計業務に比べて発注件数が多くない中、新たな建築物に対して設計事務所の名を残すことができるとの見込みから、業者の受注意欲が高まった結果であると推察している。
<p>2 委員があらかじめ抽出した案件に係る業者選考等の経緯について</p> <p>小橋町ほか1町地内ガス管及び配水管改良工事（その4）</p> <p>○ 二度入札不調となっているが、不調となった原因と今後の対策について、どのように考えているか。</p> <p>無量寺公園地下貯留施設電気設備設置工事</p> <p>○ 入札に参加した8者全者が最低制限価格と同額で抽選となっているが、今年度からの最低制限価格の算出方法見直しによってこのような事態は是正されるのか。</p> <p>城北水質管理センター2号脱水機定期修繕工事</p> <p>○ 本工事は随意契約の案件だが、設備としては10年を超えている。長期的な観点においては、新たな設備機器へ更新することで、技術向上に伴うランニングコストの抑制が期待できると考えるが、新機器導入の余地はないのか。</p> <p>平成30年度 西部水質管理センター汚泥濃縮棟機械電気設備更新実施設計業務委託</p> <p>○ 入札参加想定業者が8者あったにも関わらず、1者のみが応札し落札している。この理由についてどう捉えているか。</p> <p>四十万小学校校舎大規模改修工事第1期（建築工事）実施設計業務委託</p> <p>○ 競争性が働き、適正な入札結果になっていると思われる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線の工事や県・民間等の土木工事が多く発注されていることから、配置できる技術者が不足している状況がある。また、本工事の特徴として、民地への引き込み管の更新工事を伴うことから、各需要家に対する工事の説明や日程調整が必要となり、他の発注工事との比較から敬遠される傾向があるのではないかと推察している。 今後については、繰越明許を活用した端境期対策を含め、発注時期の見直しにより年間を通じた発注の平準化に努めてまいりたい。 上限が「10分の9」から「10分の9.2」に引き上げられ、精度の高い積算が必要となることから、横並びの同額抽選は非常に少なくなると考えている。ただし、今後の積算能力の向上を踏まえて応札状況については常に注視していきたい。 本設備の法定耐用年数は15年となっているが、定期的に消耗品の部品交換や整備点検を行いながら耐用年数より長く使いたいと考えている。 ただし、省エネの機器等が発売された際には、比較検討の必要があるため、業界の動向について注視している。機器更新の時期には汎用部品でも交換可能な機器の導入について検討したい。 落札業者は市内の下水処理場における設計委託で多くの受注実績があることに加え、既設設備の設計も実施しており、他者より受注意欲が高かったと推察している。業務内容については入札参加資格要件を満たす者であれば応札できた案件であり、結果的に1者の入札しかなかったものと考えている。